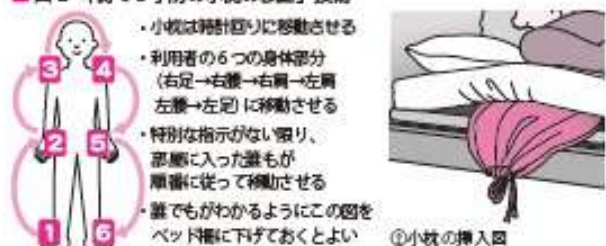


■ 図1 褥そうのある利用者のベッド上での上方移動



- ①スライディングシートとシーツを敷く
②介助者1人はシーツを引き、他の介助者は利用者の身体を支えて上方へ移動させる

■ 図2 「褥そう予防の小枕の移動」技術



- ・小枕は時計回りに移動させる
- ・利用者の6つの身体部分(右足→右腰→右肩→左肩→左足)に移動させる
- ・特別な指示がない限り、添物に入った袋もが順番に従って移動させる
- ・誰でもがわかるようにこの図をベッド下に下げておく

①小枕の挿入図

①小枕の挿入部位と挿入方法

(参考) 中山幸代 監修 [DVD 北欧の持ち上げない! 安全・快適トランスファー] 日経出版、2015年

- ⑤ 背部側のスライディングシートとシーツを身体の下に差し入れ、手前側の側臥位から反対側の側臥位にし、スライディングシートとシーツを取り外す
- ⑥ 姿勢を安定させ利用者に安楽かを確認する

北欧の

持ち上げない 移動・移乗技術

～介助者の腰痛予防と利用者の自立支援～



中山 幸代

なかやま さちよ 田園調布学園大学 元教授。2003年に「移動・移乗技術研究会」を立ち上げ、ノルウェー・ルンデ・ハルヴォール・ルンデの「持ち上げない移動・移乗技術」の研究と普及をめざした活動を行っている

第5回

褥そうのある人の移動方法と 褥そう予防の小枕の移動

褥そうのある利用者の ベッド上での上方移動

褥そうがある利用者をベッド上で体位変換や移動の介助を行う場合は、褥そう部をシートで摩擦しないことが必要です。ここでは、側面を保護しながらベッドの上方へ移動させる方法を紹介します。

仙骨部に褥そうがあり、膝が曲がらない状態の場合(2人介助)

- ① 介助者2人で仰臥位から側臥位(ベッドの反対側)にして、枕の部分から踵までベッド手前側の半身にスライディングシートを敷き、その上にシーツを敷く(図1①)
- ② 利用者をベッドの反対側の側臥位から、手前側の側臥位にする
- ③ スライディングシートとシーツを反対側に引き出し、利用者の身体がスライディングシートとシーツの上にあることを確認する
- ④ 利用者を側臥位にしたまま、介助者1人が身体を支え、他の介助者が頭側のシーツを持って上方へ移動させる(図1②)

「褥そう予防の小枕の移動」

ベヤ・ハルヴォール・ルンデは最低2時間ごとの体位変換に加え、小枕をマットレスの下に差し入れ、身体にかかる荷重の場所を移動させて褥そうを予防することを「褥そう予防の小枕の移動」と名づけています。小枕は身体の6カ所に順次、移動させます(図2)。

ある施設でターミナルケアの対象者7名にこの技術を実践した結果、7名中5名は死亡時まで褥そうが発生せず、2名は実践前にみられた褥そうが改善しました。利用者の重症化がすすみ、褥そう発生のリスクが高い利用者も増加していることから、「褥そう予防の小枕の移動」を導入する価値は高いと考えます。

参考文献

- ① ベヤ・ハルヴォール・ルンデ著 中山幸代/福田智也監訳、和子・マイヤー新 監訳、移乗の知識と技術 介護者の働き方と介護者の活動性の向上を目指して、中央法規出版、2005年、48～49頁
- ② 中山幸代 著 田川智志、西川暲著 「介護現場における褥そう予防の小枕の移動」技術の有効性—高齢者福祉施設での実践と効果の検証—第24回日本介護福祉教育学会学術大会、2017年、64頁

小枕の素材は、100円ショップで販売されているナップザック(30cm×40cm程度の大きさのもの)の活用が有効。滑る素材ははし入れが容易。鮮やかな色は挿入部位が一目でわかる。バスタオルをたたんで、中に2分の1くらいの厚さまで入れ、口巾を縮んで使用する。